

2023.06.18.悪から離れる 詩編 34 編 11 節から 16 節 Mac 牧師

一緒に祈りましょう。天のお父様。今朝のメッセージがとても楽しみです。主よ、私たちが直接でもオンラインでもここにいることを許して下さいありがとうございます。主よ、あなたが私たちに何かをご用意されている事を知っています。あなたは、毎日必ず何かをご用意して下さい。ここであなたの教えの下にいられるこの機会に感謝します。主よ、マック牧師をあなたに感謝します。彼を見守っていただけませんか？ 主よ、あなたの御言葉を届けるため彼に強く立つ力を与えて下さい。共に過ごすこの時間を祝福下さいますように。イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。アーメン、そうなりますように。主を褒めたたえます。どうぞご着席ください。

では、おはようございます。今日ここにおられる方、オンラインでご覧の方全員におはようございます。アロハ！ カルバリーチャペル・カネオへ へようこそ。J.D.ファラグ牧師の代講で、彼が不在中、ここに出席している方に、特別な温かい歓迎の言葉を送りたいです。残念ながら JD は、あなたに直接会えず、先週の彼の家でのバーベキューをあなたは逃しましたね。ー(笑)ー

いやいや、市外から来られている方、どうか帰られる前に、お知らせください。私たちは、彼に時間があるなら、あなたと連絡を取ることができるかどうかを模索したいと思います。彼は、牧師の役割を担うこの神の教会に来る全ての人に会いたいと心から思っているからです。来て下さり本当にありがとう。歓迎します。ここカルバリーチャペル・カネオへあなたがメッセージと愛の祝福を受け取られるのを祈ります。次回の祈り会は、この礼拝堂で8月1日(火)午後7時からです。明確な理由から、7月の祈り会はお休みです。7月4日(独立記念日)が火曜日で、ハワイでは本当に宗教的祝日みたいなもので、ご存知ないです？ 7月4日は、(花火が)バンバンです。撃ち合いという意味ではなく、皆さん分かりますよね。先週話しましたが、そう、毎日祈ってください。祈るために、祈り会を待たないでください。でもご都合が良ければ、予定を立てていらして下さいね。私たちは、特に、私たちが生きている今、大変必要な祈りの集会をしますから。ではでは、全てのパパたちに、父の日、おめでとうございます。ー拍手ー JD 牧師が母の日に話したように、多くの方が父親を亡くしておられることに気づかされます。その点、私はとても敏感です。私たちは皆さんと一緒に悲しみ、父親を亡くした人たちを主にあって祈ります。私たちは、永遠の御父と来たるべき永遠の再会を果たせます。ですから、私たちはここにいる父さんたちを喜ぶと同時に、そうでない人たちのことも忘れないようにしましょう。今日という日を楽しむために、最善を尽くし、家族や友人、主があなたの道に置かれた方と共に自由に祈ってください。ですから、父の日おめでとうございます。

日曜日は、2つの礼拝があり、第一礼拝は通常、「聖書預言・アップデート」に専念し、第二礼拝は「説教」です。しかし、今日は2つの違った学び、「説教」をします。第一礼拝は、「詩篇 34 篇」へ皆さんをお連れしたいと思います。「詩篇 34 篇」11 節から 16 節までです。

皆さん、可能であれば今朝の聖句箇所を読むのにご起立ください。それから祈ります。繰り返します。「詩篇 34 篇」11 節から、神の御言葉をお読みします。

ー詩篇 34 : 11ー

来なさい。子たちよ 私に聞きなさい。主を恐れることを教えよう。

ー詩篇 34 : 12ー

いのちを喜びとする人はだれか。幸せを見ようと 日数の多いことを愛する人は。

ー詩篇 34 : 13ー

あなたの舌に悪口を言わせず唇に欺きを語らせるな。

—詩篇 34：14—

悪を離れて 善を行い 平和を求め それを追い続けよ。

—詩篇 34：15—

主の目は 正しい人たちの上にあり主の耳は 彼らの叫びに傾けられる。

—詩篇 34：16—

主の御顔は 悪をなす者どもに敵対し主は彼らの記憶を地から消し去られる。

祈りましょう。今朝の主の御言葉で祝福下さるようお願いしましょう。天のお父様、このあなたの教会に平安に集うことができ、主よ、改めて感謝します。あなたが語ってください。どうか大胆に語ってくださいますように。私たちは皆、これを聞く必要があります。主よ、そうして、私たちはあなたのためにより良い使節になれますように。あなたが私たち一人ひとりの前に定められた御心をなさってください。主よ、お語り下さい。私たちは聞いています。あなたの御声を聞く必要があるので、私たちの心を整えて下さい。救世主イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。どうぞご着席ください。今朝、第一礼拝の学びのタイトルは、「悪から離れる」です。

私は、今読んだこの箇所を、ある種のガイドとして使うつもりで、主がふさわしいと思われるなら、全世界同様、私たちが全国で目撃している、悪にまつわる邪悪に焦点を当てます。さっきも聞かれたんですけど、「父の日の挨拶をするのですか？」答えは「はい。」です。で、学びのタイトルは、「悪から離れる。」です。—(笑)—

悪が、言わば暴走を続けていることに、皆さんも同意していただけたと思います。人々は悪から離れず、悪に引き寄せられるだけでなく、悪を助長し、さらには悪を普通のこととしています。悪が蔓延しています。私たちの多くが落胆するほど、ほとんど歯止めが利かず、その一方、悪に無感覚になっている人もいます。でも私たちは、この悪に過度に落胆する必要はなく、無感覚になりません。私たちは、闇の悪を暴くのが使命です。彼らがどこで嘘を言おうとも。皆さん、ついてきていますか？ おお、これは、私たち全員の試練の課題かもしれません。でも、それはそれです。私たちの強さは、自分自身からではなく、主から来るものでなければなりません。主の御言葉のお陰で、今見ているものはすべて、私たち一人ひとりをこの世で備えるため、主の御言葉に記され、主の御言葉で予告されていることを知りながら平安を見出すべきです。問題の事実は、私たちが主に近づけば近づくほど、この世が悪の渦に巻き込まれても私たちは更にもっと平安が得られます。誰か一人でも、広い意味で物事が良くなると思っている人がいるなら、あなたは自分を欺いています。または、違う聖書を読んでいる。あちこちに見える、いわゆる希望の光は、それはほとんど気の散らしと仕組まれたものです。クリスチャンとして私たちは、これを認識する必要があります。なぜなら、真理の保持者として、私たちがこれらの気の散らしと、それに伴うすべてに加担するようになると、真理の証人になれなくなるからです。悪魔の狙いは、私たちが「こっちの火を消し、あっちの火を消し、そっちの火を消す。」で、神の御言葉を決して証ししない事。そもそも、悪とは何かを知らないのに、どうやって、世全体が本当に悪を知れるのでしょうか。私たちは、彼らに見せるべき真理があるのに、忙しく走り回っていてそれをしない。ですから、ほとんどの場合、彼らの悪の見方は社会と一致します。世の悪の定義の仕方が。私たち、これが分かりますか？ ですから、主のお許しを得て、「詩篇 34 篇」を概説し、各節を見ながら解説していきます。そうして、こんにちの悪の数々を見ながら、なぜ悪が認識されず、なぜそう呼ばれないのかを見ていき、私たちは、どのようにそれらを回避する

ため舵を取れるかを議論し、そして最後に、ある程度悪から離れないことを選んだ人たちがどういう結末になるかを示します。では「詩篇 34 篇」、これはダビデ王が記した「詩篇」です。これは感謝の詩で、神に救いを求めて祈る詩です。この詩篇の序章は、ヘブル語でこうです。

「ダビデによる。ダビデがアビメレクの前で、頭がおかしくなったかのようにふるまい、彼に追われて去ったときに。」

レイトゥ牧師は、直近の木曜日、この「詩篇 34 篇」を読みました。神の思し召しで、10 節まででした。それで今、11 節からです。それが神のなさる事です。この「詩篇」自体、ダビデがサウルから逃げている時期に書かれたもので、サウルは、ダビデの死を望んでいました。ダビデは、サウルから逃げ出し、アキシュ王支配のペリシテ人の地ガテへ行きます。記述の通り、アキシュ王の家来がダビデを見つけます。

「ちょっと待って下さい。あれは、ゴリアテを含み、万のペリシテ人を撃ったダビデ王ではないか。」彼らは興奮しました。それを聞いたダビデは、ただただ平静を装いました。その家来たちが、アキシュ王のところへダビデを連れて行ったとき、ダビデは振る舞いを変えました。ひげによだれを流したりして、気がおかしくなったふりをしました。それでアキシュ王は、ダビデが気が狂っていると思い、放っておき、害を与えませんでした。非常に興味深いのは、このアキシュ王の名前で、「蛇を魅了する者」という意味です。蛇を魅了する者が何をするのかを考えると、この王はとても機知に富んでいたと思われます。しかし、彼はダビデに出し抜かれます。ダビデがアキシュ王に会うのは、これが最後ではないからです。その時彼は さらに大きな規模で彼を欺きます。ダビデがしたこのような欺瞞は、決して悪とか、悪いことだと思わないでください。ダビデが祭司を欺いたときは、あれは誤った判断で、その結果、自国民にとって悲惨になりました。しかし、戦いや悪への対処に関しては、このような欺瞞は戦略的で正当です。彼は主を褒めたたえます。効果がありました。アブラハムは、サラについて半端な真実を語りました。覚えてますか？ しかし、ここでダビデは平安を保ち、振る舞いを変えました。全く違います。詩篇 34 篇は、ダビデが狂ったふりをしている状況で、信仰がなかったからだだと非難する評論家の口を塞ぐべきでしょう。全くそういう事例ではありません。ダビデは命の危険にさらされていましたが、今、この状況をもたらした恐怖から自分を解放して下さった神を賛美しています。それが聖句に記されている事です。多くの歌が、詩篇 34 篇の一部を使っています。全部で 22 節あって、今から、その内の 6 節を見ていきます。聖書聖句に戻り、神の御言葉をお読みします。11 節、

—詩篇 34 : 11—

来なさい。子たちよ 私に聞きなさい。主を恐れることを教えよう。

ダビデが、神の御霊によって記す御言葉に耳を傾けてください。これはダビデによる嘆願です。この詩篇の文脈と、ダビデがこの時点でどこにいたかを忘れてはなりません。それが聖書に記されているからです。ダビデは気が狂ったふりをしたばかりなのを覚えておいてくださいね。ダビデは狂ったふりをし、ガトの王に追い払われ、その直後、「第一サムエル記 22 章 1-2 節」にこんな御言葉が収められています。御言葉をお読みします。

—I サムエル 22 : 1—

ダビデはそこを去って、アドラムの洞穴に避難した。彼の兄弟たちや父の家の者はみな、これを聞いてダビデのところへ下って来た。

次の 2 節のリストを聞いて下さい。

—I サムエル 22：2—

そして、困窮している者、負債のある者、不満のある者たちもみな、彼のところに集まって来たので、**ダビデは彼らの長となった。約四百人の者が彼と共にいるようになった。**

ダビデのもとに集まったのは、どんな種類の人たちか分かりますか？ 負債のある人、悩んでいる人、心に苦みを抱えている人。彼らが、敬虔な人々であったとはどこにも書かれていません。負債がある。つまり、借金があるということです。全員が敬虔でないと考えるのが自然でしょう。ダビデがこの詩篇を歌っている時、この洞穴で、彼が一番歌っているのは、この人たちに向けてです。改めて、ダビデが書いたというのが、聖書の内容からして理に適います。ですから、その場面を想像下さい。400 人の人たち。その家族は数えられていません。幾人かは、私たちが知らない様々な理由で、負い目があって負債がある。その評判はあまり良くないと推測できますよ。評判が悪いと信用はどうです？ 彼らは、この洞穴に身を潜めています。そこはあまり明るくありません。彼らが持っていた真の光の源は、ダビデが説く神の御言葉だけだったとも言えます。ダビデは、周りの誰にも影響されることはありません。ダビデは、影響力のある人になります。これを考えて下さい。ダビデは大胆にも、彼らにこう言います。

「来なさい。子たちよ。」ちょうど父親のような存在で、主への畏れを教えるため、喜んで時間をとり、時間を作ります。その光景を想像できますか？ 彼らが、ダビデを長にしたかもしれません。しかしダビデは、誰が王であることを示したのです。人に何かを教えるのは、彼らが知らないからではないですか？ 主を畏れることを、教えなければなりません。これがすべての始まりです。このような神への畏れがなければ、神の知恵を得ることはできないからです。私たちは、人を悔い改めさせるのは、神の優しさであると知っています。しかし、主を畏れることが、人に悔い改めの必要性を完全に理解させられます。私たちが、いかに邪悪であるかを認識しない限り、そこから離れることはないでしょう。「箴言 8 章 13 節」
神の御言葉をお読みします。

—箴言 8：13—

主を恐れ（畏れ） ることは 悪を憎むこと。わたしは高ぶりと、おごりと、悪の道と、ねじれごとを言う口を憎む。

これはよく知られている「箴言」です。それが言わば、全てを要約します。主への畏敬の念は、悪を憎むよう私たちを導くはずで、あらゆる形態の悪、特に高ぶりと傲慢を。それらは相反するものだからです。この畏れが、私たち一人ひとりの中の悪をありのままにさらけ出します。私たちに炙り出されない良心があるなら、自分からこの悪を取り除く方法を探し求め、それが祈りにより、唯一の善の源へと導くのです。それは、真の生ける神から与えられます。ダビデは、命からがら逃げながら、このことを教えることとなります。尚も彼は、神についてを教えました。彼はそれを、多くの人に教えることとなります。その中には、人生の試練で心が硬くなってしまった人も多くいました。私にとって、これまで話してきたことを踏まえこの聖句、11 節から得た主な教訓は、私たち公言するクリスチャンは、ダビデのように大胆に、一人で立って、主が私たちのところへ連れて来られる主への畏れを知らない人々に教えたいと願っているのでしょうか。これは、出ていくことではありません。考えて下さい。ダビデは洞穴にいて、彼らがダビデの所へやって来るのです。私たちは、主が連れてきてくださる人たちに、ダビデのように、すべて大胆になるべきです。特にこの世に負債がある人、この世に鎖でつながれている人に対して。私たちは、主への畏れを教えますか？ 彼らが私たちのところに来るときは、答えを探しているのです。あるいは、主がこれらの人々を大勢連れて来られたとき、彼らを恐れるあまり私たちは彼らのやり方に合わせ

るのですか？ 私たちは、こうした機会を認識し、大胆になることが必要です。主が私たちに、もたらされる機会として。おお、私たちは、それが主だと知ることができますよ。主は私たちを、その状況に持っていかれ、私たちはこうです。「そこには行きたくない。ニネベに行くようなものだし。」

でも主は、その全てに御手を伸ばされます。で、私たちがそこに行くと、私たちは、大胆に主への畏れを語り、教えることができるのでしょうか？ 神が私たちに連れて来られる苦悩している人たちには？ 私たちは、彼らの苦悩を敬虔な方法で説明できるほど大胆ですか？ セラピストに通う人は何人くらいいると思いますか？ 主を畏れることは、素晴らしい治療だと言っておきます。悪から離れることで、"今"の自分の問題をすべて解決することができます。将来的に、全ての問題を解決することを知っています。それはセラピストの人や、セラピストに通う人を否定する事ではありません。でもあなたがクリスチャンなら、キリストが全ての中心である必要があります。最後に、すでに苦々しい魂を持っている人、神と関わりたくない人に、私たちは、主への畏れを教えますか？ 彼らが求めているのは、避難場所だけです。大切な人を亡くしたときに、よく経験することです。クリスチャンとして、私たちは愛を持って、肩に手を置くような形で彼らの所へ行き、こう言います。「主はあなたと共におられ、主はあなたを召しておられます。」で、彼らの応答がこんな風なら、「私には主は必要ない。私に必要なのは、母や、父や、姉さんや、兄さんが戻って来ることだ。」

非常にデリケートな状況です。でも問題の真意は、彼らも私たち全員と同じように、主への畏れを理解する必要があります。もちろん、これは愛のうちに、主の導きに従って、すべての識別力をもってなされます。しかし、この「主を畏れる」を教えられ、神の御言葉を受け入れ、信頼することを決意した時、すべてが整っていきます。人生は完全に理に適っており、最終的に死は何の意味もありません。ダビデは、どんな集団にも、何があっても、主への畏れを教えるでしょう。私たちがそうありたいと思います。ダビデは、「詩篇 34 篇 12～14 節」で続けます。御言葉をお読みします。

一詩篇 34 : 12-

いのちを喜びとする人はだれか。幸せを見ようと 日数の多いことを愛する人は。

一詩篇 34 : 13-

あなたの舌に悪口を言わせず唇に欺きを語らせるな。

一詩篇 34 : 14-

悪を離れて 善を行い 平和を求め それを追い続けよ。

12 節の冒頭を中心に見てみましょう。尋ねる問いがあるから、私にとって大変物語っています。

「いのちを喜びとする人はだれか。」どんないのちでも良いのではなく 良いと分かるいのちです。付いてきていますか？ 言い換えれば、「私がこれから話すことは、この墮落した世で良い人生を送る最良の方法。」これが、ダビデが言っていることです。

「短い答えが欲しいのでしょうか。悪を語らず、悪をしない。良い事をし、平安を求める事。」

シンプル過ぎます。一方、ダビデの悪口を言っているサウルがいます。彼は、ダビデに対して欺瞞を重ね、ダビデを殺したいと思うほど悪に溺れています。サウルは、善なるものから離れ、今は平安よりも争いを追い求めるようになりました。サウルは、ダビデが理解する心に反して生きていました。ダビデは、神を思う心を持っていたからです。悪口を言わず、悪を行わず、平和を求めながら長生きをし、良い事を行う。素晴らしい立ち位置の指導ですね。ダビデ王は、その場に一緒にいた人たちにそれらを与えます。それは今も、私たち一人一人のためにあります。その場面を忘れてはいけません。ダビデはまだ逃亡中で、洞穴

で生活しています。しかし彼は、悪から離れて生きること、善を見ることができると知っています。そんな苦悩する 400 人の一人としてここで私が演じてみます。

「じゃあ OK、ダビデ。でも、何が悪で何が善なのか、誰が決めるのですか？」

ダビデが答えます。「神です。私があなたに畏れを教えた同じ神、唯一の真の生ける神です。神は、私たちに悪とは何かを教えて下さり、私たち一人ひとりがいかに悪であることを示されます。」なぜなら悪とは、御言葉の神に逆らうもの、神の御言葉に逆らうもの全てだからです。それ以外のすべてが悪です。どうです？ この世全体が悪で、だから私たちは、そこから離れなければなりません。イエスは、私たちのために、この世から離れるよう祈ってくださいます。「ヨハネの福音書 17 章」14 節から 16 節です。これが言わば、本当の「主の祈り」の一部と言うべきものです。御言葉をお読みします。イエスが話しておられます。

—ヨハネ 17：14—

わたしは彼らにあなたのみことばを与えました。世は彼らを憎みました。わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではないからです。

—ヨハネ 17：15—

わたしが願うことは、あなたが彼らをこの世から取り去ることではなく、悪い者から守ってくださることです。

—ヨハネ 17：16—

わたしがこの世のものでないように、彼らもこの世のものではありません。

「私たちがこの世のものではない」とは肉の欲や、目の欲、暮らし向きの自慢など世の悪から離れる事です。(Iヨハネ 2:16)

これらすべてが神に敵対します。この世のものではないとは、そういう意味です。この世全体が、少なくとも今のところ悪魔に支配されているからです。皆さん、これを理解していますか？「ヨハネの福音書 14 章 30 節」にも記されています。御言葉をお読みします。再度、イエスが話しておられます。

—ヨハネ 14：30—

わたしはもう、あなたがたに多くを話しません。この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることができません。

これが分かりますか？ この世の現在の支配者は誰ですか？ サタンです。臆することなく、言ってください。それが聖句の語る事です。私たちはこれを理解する必要があります。サタンがこの世を支配するのなら、この世の人々は、真の生ける神を信じません。彼らはどうやって何が悪なのか本当に分かりますか？ 皆さん、付いてきていますか？ 彼らの多くは、クリスチャンは悪だと考えます。少なくとも真の悪を暴く者を。そう彼らはクリスチャンを憎んでいます。私は、ヘイトメールがたくさん来ますよ。しかし、聖書には、私たちは憎まれると書かれています。私たちは、この世のものではないからです。イエスが弟子たちに語ったのは、その弟子たちが世に適合していないことを意味します。彼らは、主の御言葉に適合し続けました。でも、悪魔に支配された世にいる未信者にとって、神の御言葉とは何か？ そこで、神を信じない人たちに、時間をとって、直接語りしたいと思います。特に、ここアメリカで、聖書が唯一の神の御言葉だと信じていない人たちにも同時に直接語りかけたいと思います。

まず、神を信じていない人は、この 2 つの理論間で自分の軸としている可能性が高く、ビッグバンもそうですし、他にも色々ありますが、これら 2 つが核心と言えるでしょう。進化論と物質主義、あるいはそ

の両方の組み合わせです。

さっとやります。チャック・ミスラーにはなりません。これで十分だと思いますので。

「生物学における進化とは、生物の新しい種や集団が、既存の形態から世代を経て発展していく過程である。」

それが彼らの定義です。いいですね？ 私たちはもう、かなり遠くまで来ているのが分かっています。様々な理由から、それ自体が大きな問題であることは承知します。ひとつは、救いようのない複雑さです。それだけでも、説明不可能です。例えば、エンジンを手に入れて逆噴射する人がいるでしょ？ 彼らは、その仕組みを確認するため、分解を始めます。ある時点で機能しなくなります。私の言っていることがわかりますか？ キャブレターを外すと、どうなります？ エンジンが作動しません。すべてが一つのシステムとして機能していなければなりません。あまりに複雑なため、減らせません。生命の起源と同様、彼らは何も語るできません。とにかく、それが進化論です。危うくチャック・ミスラーになるところでした。ごめんなさい。ー(笑)ー

物質主義は、重力、電磁気力、核力など、物理的な力だけが実在するという主張です。これを聞いて下さい。

「測定できないものは、人間の想像力の産物と見なされ、超自然的無意味さを反映。」引用終了。

今の聞きました？ 聞かれたのを祈ります。今の引用聞きました？ これが、あなたにとっての科学の世界です。それが彼らが話すことです。OK。

では、科学者が宇宙の創造主だと絶賛する暗黒物質についてはどうでしょう？ この暗黒物質について引用します。NASA.govに掲載されています。こうあります。

「銀河系の質量の約 95%は目に見えず、光と相互作用しない。暗黒物質と呼ぶ謎の物質でできている。これまで直接測定されたことはない。」

これが NASA です。その予算を知りたいですか？ では、科学に基づく NASA よ、これは人間の想像力の産物のように聞こえますよ。私は完全にナンセンスだと言えます。神の御言葉は、すべてのものはイエス・キリストによって保たれていると語ります。(会衆：アーメン)

謎の物質があるわけではありません。全て神のご設計です。でも、そのことを脇に置いてみましょう。

では、これらの理論を考えに入れた上で、まずはその考えから、いくつか質問をします。

最初の質問は、無神論者と、神を信じないすべての人向けに。

「神がいなければ、誰が善悪を決めるのですか？」

あなたが答えるものは何であれ、「私たちが、私たち自身が、独自に私たちが決める。国会、政府、王、部族、社会、文化が。」あなたが答えるものは何でも、フォローアップの質問はこれです。

「それが正しいという事実がどうやって分かるのですか？」

彼らはその問いに早々に答える前に、私はあなたに、善悪として確立されたものが何であれ、または何であったとしても、言わせて頂きます。それが変化したことがあるならその時、間違っていたか、今、間違っているかのどちらかです。わかりますか？

最後の質問は、あなたに聖書の中にはない、昔から変わらない道徳観があるならそれは何ですか？ 例えば、盗んではいけない、殺してはいけないなど。私たちが置かれている状況がわかるでしょう？ 質問ではありませんが、もうひとつ考慮すべき点があります。

アダムとエバが墮落したとき、彼らは善悪の知識の木から食べたことを思い出す必要があります。だか

ら現実には、私たちは皆、善の知識を持っています。でも、私たちは皆、悪を行う傾向があります。それは、世全体に対する告発です。善と悪が混在したものは、結局は悪にしかなりません。中途半端な真実と同じで、最後は全部嘘です。

結論から言うと、真の生ける神を信じない者は、何が善で何が悪かについて、100%の答えを得ることはできないのです。なぜか？ なぜなら、私たちは神なしでは悪を受け入れるようにできているからです。真の生ける神を信じない者は、客観的道德がありません。人間の外側にある道德は、人間に与えられたものであり、これまでもこれからも変わることはありません。それが違いです。人間には倫理観があります。彼らはそう呼びます。彼らはそれを道德と呼びます。実はそれらは倫理であり、倫理は風と共に変化します。ですから昨日は、犬と結婚するのは倫理的にダメでしたが、今日は、犬と結婚することは倫理的なのです。人間は悪のために、悪を受け入れます。聞いてます？ あなたが悪事を働き、私が悪事を働くなら、結構だと。私たちは皆、生活のために悪を受け入れることもあります。私たちは、社会的地位のために、悪を受け入れます。私たちは感情が故に悪を受け入れます。悪を受け入れるのは、それが自分に正しいと思えるからです。私たちが悪を受け入れるのは、心の底にあるものが悪だからです。「箴言 14 章 12 節」、御言葉をお読みします。

一箴言 14:12

人の目にはまっすぐに見えるが、その終わりが死となる道がある。

奇妙なのは、私たちがこんにち世で目撃しているこれらの方法です。描いている人たちが、正しいとは思えません。彼らが進めようとしている悪に戸惑う様子がわかりますか？ しかし、彼らは非常に悪でありそれを認識していないため、自分たちの目から見ての悪を正すためなら、どんなことでもしようとします。でも、それは死の道に導きます。それがやって来ます。悪は、その中に溶け込んで留まる人の思いを盲目にします。それが真理から遠ざけてしまいます。彼らの心は、大変頑なになってしまっているからです。しかし、繰り返しますが、真理は、私たちが悪を憎み、悪から離れる事です。「箴言 8 章 13 節」に戻ると、留意すべきは、大文字で最も邪悪と記されているのは、「高ぶり/プライド」です。これがわかりますか？ 毎年、毎年、この国や他の国の大衆が、「プライド月間」を祝い続けるというのは、ほとんど考えられないことだと思います。ご存知ですか？ 彼らは、聖書の神について十分に知っていて、その神の御言葉に反することだと分かっています。だから彼らは、十字架を使ってあざ笑うのです。だから彼らは、十字架の上で、イエスが淫らな行為をしている姿を描き、イエスをゲイとして描写するのです。他の宗教ではこのように嘲笑にされることはありません。男と女に関しては同じ思想の他の宗教もあるのに、キリスト教だけです。なぜ、彼らはそれをするのか？ なぜなら、彼らは、聖書の神が真の生ける神だと知っているからです。レプラコーン（妖精）を嘲笑する人はいません。レプラコーンは実在しないからです。こんな風に嘲笑するのはそれが現実だと知っている時です。本物だと知っていなければ、時間を投資しません。それは自己告発であり、それをする彼らの大胆な行動は彼らが主に対する恐れがないからです。先ほど話したように、私たちは彼らに主への畏れを語ろうとさえしていますか？ していますか？ 場合によっては、私たちが問題です。私たちが主への畏れを語らないからというだけではありません。私たちが主への畏れを持たないからです、だから彼らは証人に会うことができない。私たちが人生を公開書簡として生き、「畏れなし。」が彼らの目に映る。では、何が彼らの心を変えますか？ 思い出してください。悪には悪を。「あなたは他の悪事をしているのが分かる。なぜ、私の悪事を語るのですか？」と。私たちが世を裁いてはいけないからと言って、主が目の前に悪を置かれたときに、悪が暴走するのを

許して良いということにはなりません。私たちは悪から離れるべきで、私たちは彼らに同じように教えるべきです。これは、そもそもなぜ悪を受け入れるのかということに戻ります。私たちは多くの場合、恵みを悪を受け入れる手段として使い、人々が私たちに共感を寄せることを許します。「お〜共感してください。」私は悪から離れます。それが共感することです。悪は悪です。私たちは、悪と闘うことを学び、また、悪を避けてやり過ごす事を学ぶ必要があります。私たちはその周りを通り過ぎればいいのに私たちの多くは、悪と戦うため多くの時間とエネルギーを費やしています。その一方で、戦うべき悪を許しています。手短かに「ボイコット」の話をして、ポイントを押さえたいと思います。

「プライド運動」に賛同するようなこれらの集団は、いずれも常に「プライド運動」の一員です。全て意図的です。それが彼らの策略です。彼らはシステムの一部です。私たちが話しているのは、大企業のことです。彼らは皆、邪悪な者の支配下です。私たちはそれに気づく必要があります。私たちは、このようなボイコットの提案で洗脳され、時間を消費させられることは許されません。そんなことは忘れてください。私たちは、すべての会社、企業、そのトップにいる人たちが、神のことには何の関心もない人の支配下だと正しく考える必要があります。どうです？ 私たちは彼らの製品を買う。どうしようもありません。製品に名前をつけて、タマネギの皮を剥いたら一番上にあるのが悪の支配者です。それがやり方です。私たちは、これらの製品の使い方にもっと気を配るべきです。これは、私たちが回避が必要な混乱です。その時々で、違うルートで行く。またある時は、そのまま通り過ぎる。しかし、私たちが悪について語るとき、このようなことに巻き込まれると、私たちは本当の問題に対処できなくなり、それが、悪を受け入れる事になります。その方が大きな問題です。私たちは、家庭で悪を受け入れていますか？ 私たちは、主が導かれる通りに悪に立ち向かうことができませんか？ 私たちは何も言わないのですか？

ヒント：それは、あなたが悪を受け入れているサインです。

今日の「詩篇」に戻ります。ダビデは、サウルの悪事をボイコットしたわけではありません。違います。ダビデは悪を暴き、善を推し進めました。私たちにとって、製品や人々はそれほど問題ではありません。製品の、人々の背後にある悪が問題です。この人たちのために祈りましょう。彼らにはイエスが必要です。神に知恵を祈ってください。そうすれば、この混乱に対処する方法が分ります。このような理解を深めるため、聖書の中にある例があります。「第一コリント人への手紙 8 章」です。この主を知ることの全容が 4 節から 13 節に記されています。でも 4~6 節までしか見ません。時間の都合上、まとめます。御言葉をお読みします。

—I コリント 8:4—

さて、偶像に献げた肉を食べることについてですが、「世の偶像の神は実際には存在せず、唯一の神以外には神は存在しない」ことを私たちは知っています。

—I コリント 8:5—

というのは、多くの神々や多くの主があるとされているように、たとえ、神々と呼ばれるものが天にも地にもあったとしても、

—I コリント 8:6—

私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によってすべてのものは存在し、この主によって私たちも存在するからです。

私たちは経験豊かなクリスチャンとして、このことを理解し、この世の物事に関してこの知識を応用す

る必要があります。使徒パウロがここで言っている文脈では、彼らがこの肉を偶像に捧げ、それを私たちに売って食べさせようとしたからといって、それは、偶像を拝むお墨付きを与えられているわけではありません。私たちは食べるためにこれを買っていて、私たちの神に感謝を捧げるのです。この混乱を回避するため、私たちがこれをどのように利用できるか、わかりますか？ あなたが本当に律法主義をしたいのなら、着ているものが悪人に作られたんだから、森に駆け込んで、裸になればいい。イチジクの葉を手に取り、携拳を待っていてください。狼に見つからないことを祈るしかありません。—(笑)—

要点はわかっていただけましたよね？ ですから、誰がチックファイレイに行ったかを心配するよりも、結婚せずボーイフレンドと暮らしている娘を心配する必要があります。どうして私たちはそれに関与しないのですか？ 私たちは、家庭から始め、主の導きに従って外に向かって押し出す必要があります。再度、物事が生じたら、それを避けて言い訳にしない。「お～家庭のことが先だからね。」とは。違います。私たちは、悪がやってきたら、どこにいても悪に対処する。簡単なことではありません。しかし、それは私たちに命じられていることなので、する必要があります。では、ぐるっと元に戻って、今朝の箇所の最後の2節、15節・16節の御言葉をお読みします。

—詩篇 34：15—

主の目は 正しい人たちの上にあり主の耳は 彼らの叫びに傾けられる。

—詩篇 34：16—

主の御顔は 悪をなす者どもに敵対し主は彼らの記憶を地から消し去られる。

ここで、ダビデ王は、主の御目が正しい人の上にあることと、主の御顔が悪を行う者に敵対することを区別しています。それが分かりますか？ ここで示されているのは、正しい者に対する主の御目について、これが恵みの御目であるということ正しい者に対する愛に満ちた眼差しで、私たちの主への叫びや祈りに御耳を傾けて下さることです。主を畏れ、悪から離れようとする者に、天の御父の慈愛に満ちた眼差しです。しかし、主の御顔について示されることは、全く違います。聖句から分かりますね？ 聖書は語ります。「御顔を見る者はどうなるのか？ 神の御顔を見る者はどうなるのか？」必ず死にます。覚えていますか？ 最近、聖書を開いていないのでは？ これが示唆されています。

悪事を続ける者には滅びを。(黙示録 22：11 参照)

これが最終的な結末です。神の御言葉を心に留め、悪から離れるか、そうでなければ、あなたは滅びる。ある解説者は、こう書いています。もう締めくくります。

—引用—

「生きている者の土地は、彼らのための場所でも彼らの物でもない。神が、彼らに御顔を向け敵対される時、彼らを断ち切るだけでなく、彼らの記憶を断ち切られる。彼らが生きていると、神は彼らが無名で葬られる。彼らが死んだら、神は彼らを忘却の彼方に葬り去られる。神は、彼らの繁栄を誰の記憶にも残らないよう根こそぎ奪われる。神は、彼らが称え、記憶されるべきだと考えていた功績に恥辱を浴びせられる。神から来るもの以外、永続的な栄誉はないことは確かだ。」これが彼らの結末、終わりです。

では、最後の質問です。私たちが皆、悪なら、誰が義でしょうか？

答え：主を畏れる者です。

なぜなら、主を畏れる者は皆、悪から離れるからです。付いてきていますか？ 私たちが本当に主を畏れるなら、悪から離れようとしてます。私たちは、主が故に義とされますなぜなら、主を畏れることで、主の愛ある優しさへの理解が与えられ、私たち一人ひとりが主を信じるに至ったからです。ですから、主

の御目は正しい者の上にあります。なぜなら、主がご覧になる時は、御子イエス・キリストをご覧になるからです。繰り返しますが、主への畏れを教える必要があります。私たちはそれを実行し、悪から離れるよう人々に勧めることが使命です。世は、イエスを嘲笑し続けています。しかし、神は、最終的な裁きを下されます。あなたが悪から離れることを選ばなければ、主の日に直面することになります。それを第二礼拝で取り上げます。ご起立ください。祈りましょう。主が与えてくださったものに感謝しましょう。天のお父様、もう一度感謝したいと思います。あなたの真理の御言葉に、感謝してもしきれません。厳しい御言葉ですが、真理の御言葉です。私たちが従う心を持ち、その願いを与えてくださるよう祈ります。実際、主よ、私たちをご支配下さい。家に帰るまで、私たちがあなたの御心を実行できるようにしてください。その日を楽しみにしています。あなたを信じない人たちのために祈る心を私たちに与えてください。このような暗い時代であっても、私たちの人生にあなたの祝福があることを表す良い証人となることができますように。主よ、ありがとうございます。私たちはあなたを愛し、あなたを讃えます！イエスの力強い御名によって祈ります。アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7